



EXPO'70 基金 2019年度助成金贈呈式

2019年5月28日 / 大阪ビジネスパーク・円形ホール

万博の開催理念を伝え続け
国連のSDGs(持続可能な開発目標)の達成にも貢献

1970年の日本万国博覧会の収益金を元につくられた、EXPO'70基金。関西・大阪21世紀協会は、その運用収入を用いて、「日本万国博覧会の意図*1」の趣旨に適った活動の助成に取り組んでいます。2019年度は、国内外の団体より150件(うち海外14件)の助成申し込みがあり、46件(うち海外9件)の事業を採択。辞退した3団体を除く合計43事業に対して、総額8,490万円の助成を実施することとなりました。今年5月28日、その助成金贈呈式が行われ、39団体・81名が出席しました。

当協会の堀井理事長は主催者挨拶で、「万博は6か月間におよぶ盛大な祭典だが、それで終わりではない。その開催理念をレガシーとして、開催後も世界に貢献し続けていくことに意義がある。万博記念基金助成事業は国連総会で採択されたSDGs*2の趣旨にも合致しており、私たちは今後もこの活動を通じて世界の平和や調和ある発展のために貢献できることを願っている」と語りました。



重点助成事業に採択された「日本美術・技術博物館マンガ館」の元館長秘書・村上ボジエナ氏(左)と堀井理事長(右)

目録贈呈に続いて、助成先の審査にあたった杉原充志氏(羽衣国際大学教授)による審査総評が行われた後、今年度の重点助成事業である「日本美術・技術博物館マンガ館(ポー

ランド)」の紹介や、昨年度の助成団体である「東京国際ヴィオラコンクール実行委員会」と「公益財団法人鼓童文化財団」より事例発表と演奏が行われました。第2部の交流会では、今年度の助成団体がブースを設けて活動を紹介。参加者たちによる情報交換が行われ、審査委員はどんな人達に助成しているのかがわかりとても意義深いと評しました。

*1) 日本万国博覧会の意図(抜粋)

日本万国博覧会がめざしたものは、世界にはさまざまな文明が多角的に共存することを、理解と寛容の精神によって認め、それらの多様性の調和の中こそ進歩が望まれなければならない、という「調和的発展」の精神でした。これは東洋思想の「和」の心を現代世界に呼び戻して、東西を結ぶ新しい理念として発展させようとするものでした。

*2) SDGs(Sustainable Development Goals)

よりよい世界を実現するために、国際社会全体の普遍的な目標として掲げられた17の優先課題。貧困、飢餓、健康と福祉、質の高い教育、ジェンダー平等、安全な水とトイレ、産業と技術革新、海洋資源保護など。2015年に国連総会で採択され、2030年の達成をめざす。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



贈呈式に参加した39団体と主催者、審査委員

審査総評



日本万国博覧会記念基金助成事業
第1審査会 審査委員長

杉原充志氏
(羽衣国際大学 現代社会学部教授)

助成事業への理解深まり、 高度な内容も多数

今年度は、昨年度に引き
続き重点助成事業(1件当
り上限1,000万円)と一般助

成事業(1件当たり上限300万円)に分けて公募しました。重点助成事業は昨年度から設けられたもので、万博助成ならではの独自性、すなわち「日本万国博開催の意図」に適った国際相互理解の促進に資する内容を重視するものです。これを募集要項に明記したことで、申請件数は昨年度(39件)より減少した11件となりましたが、私どもは重点助成事業の趣旨に対する理解が深まった結果だと前向きに評価しています。昨年度はUAE(アラブ首長国連邦)からの申請を採択しましたが、先方が辞退されましたので、今年度の「日本美術・技術博物館マンガ館(ポーラ

ド)」が記念すべき重点助成事業の第一号となります。

一般助成についても、昨年度同様、万博の理念である「国際交流」「国際性」を重視するもので、国際性を伴わない日本国内だけの活動は対象外としました。また、理工系の国際会議を主催される団体からの応募が毎年多くありますが、今年度からは、スポンサーのつきにくい基礎研究のみを対象としました。これらの結果、今年度の申請件数は139件で、昨年度(172件)に比べて減少しましたが、審査委員会では当助成事業の趣旨を深くご理解いただいたものと総括しています。実際、申請された内容は非常に高度なものが多く、採択件数は昨年度(47件)とほぼ同数の46件となりました。

採択率については、重点助成は9.1%、一般助成は32.4%で、助成を受けられる方々は、見事大きな難関を突破されたということです。

なお、審査にあたっては、昨年10月に申請を締め切った後、第1審査会(審査委員長・杉原充志氏)と第2審査会(審査委員長・同志社大学経済学部教授 河島伸子氏)それぞれ6人・計12人が評価・採点し、審議いたしました。

交流会にて



外務省 政府代表・関西担当特命全権大使

山本 条太氏

「関西・大阪ならではのネットワーキングの決意と能力を発揮していけば、令和の御代にふさわしい美しき調和を、国境を越えて促していけるはず。その意味で、万博基金の助成事業には特別の価値があると思う」



株式会社インターアクト・ジャパン 代表取締役
帯野久美子氏(関西・大阪21世紀協会 評議員)

「日本では、文化に比べて科学技術振興への助成が多い。しかし科学技術と文化の両輪の発展がなければ、健全な未来はない。この助成事業は、そうした思いを込めて、70年万博のテーマを未来に永く伝えていくものだ」

2019年度 重点助成事業

ポーランド共和国

日本美術・技術博物館マンガ館「備前長船日本刀展覧会」

おさふね

国交樹立100周年を記念し 日ポ両国の絆と文化への理解を深める

備前長船日本刀展覧会は、日本・ポーランド国交樹立100周年と「日本美術・技術博物館マンガ館」創立25周年を記念し、備前長船刀剣博物館(岡山県)と全日本刀匠会の協力を得て、日本刀30振りと現代の刀匠による5振りを展示するマンガ館主催のプロジェクトです。会期は2019年11月23日から2020年3月1日までの100日間。これほど多数の日本刀を日本から搬送・展示するイベントは国際的にも稀で、その展示や刀匠による作刀の実演、講演などを通して、日本刀に対する日本人の信仰心や卓越した作刀技術、優れた美術工芸品としての価値を東欧に紹介する絶好の機会となります。日本万国博覧会記念基金は、

2019年度助成の「顔」となる重点助成事業として、この展覧会事業に640万円の助成を決定しました。

今年4月26日、岡山市内でその記者発表が行われ、当協会の堀井理事長とマンガ館のカタジーナ・ノヴァック館長代理、備前長船刀剣博物館のある瀬戸内市の武久頭也市長、全日本刀匠会の三上貞直会長が出席。ノヴァック館長代理は、「このプロジェクトは、関西・大阪21世紀協会の支援がなければ実現しえなかった。重点助成事業に選ばれたことで、イベント全体をレベルアップさせることもできる」と感謝の言葉を述べました。また、駐日ポーランド共和国大使館のマウゴジャータ・シュミット二等書記官も東京から駆けつけ、大使のメッセージを伝えました。記者発表は地元のテレビ局(3局)や中国新聞、山陽新聞をは

じめ全国紙も取材し、翌日のテレビニュースや新聞で大きく報道されました。

5月28日の助成金贈呈式に出席したマンガ館の元館長秘書の村上ボジエナ氏は、「国と国のつながりは、お互いの文化や考え方を理解し、違いを認め合うことで深まる。その意味で、今回の展覧会はポーランドと日本の絆を強める大

きな役割を果たす。日本刀に対するポーランド国民の関心は高く、コレクターも多い。この展覧会を契機に、日本の歴史や文化へのさらなる理解を深めるとともに、自国の文化を再認識してもらえれば嬉しい。そうした活動にEXPO'70基金から支援をいただき、心より感謝している」と話しました。なお、助成金は日本刀の搬送費用などに充てる予定です。



2019年度 重点助成事業の記者発表にて(5月28日/岡山県)
左から三上会長、武久市長、ノヴァック館長代理、堀井理事長、シュミット二等書記官



日本美術・技術博物館マンガ館

クラクフ市にあり、ポーランドで唯一日本文化を紹介している国立機関。1994年設立。1920年に美術品蒐集家のフェリックス・ヤシエンスキ氏がクラクフ国立博物館に寄贈した日本の古美術品を収蔵・展示しており、彼のペンネーム「マンガ」をとって館名にしている。日本映画の上映や雅楽公演なども定期的に開催し、生け花や囲碁・将棋、盆栽などの愛好家が集まり、活動している。

昨年度(2018年度)助成事業の発表

ヴィオラスペースと「第4回東京国際ヴィオラコンクール」

発表者：山本生子さん(東京国際ヴィオラコンクール実行委員会・プロデューサー)

ヴィオラはヴァイオリンとチェロの間の音域を担当する弦楽器で、人間の声に近い音域とその美しい音色が特徴です。「ヴィオラスペース」は、そうしたヴィオラの素晴らしさを広く伝え、若手演奏家の育成などを目的とした音楽会。1992年、世界的ヴィオラ奏者の今井信子さんの提唱で始まり、2019年(5~6月・大阪、仙台、東京)で第28回を迎えます。

また、ヴィオラスペースでは国際化を図るために、アジア・環太平洋地域唯一のヴィオラ単独の国際コンクールを開催しています。ヴィオラスペースに連動して3年ごとに開催し、2018年に第4回を実施しました。

2018年は5~6月にかけて東京、大阪、愛知、宮城で開催され、世界21の国と地域から予備審査を経た32名が出場。第一次、第二次審査を経て本選へ進んだ3名が入賞し、第1位にルオシャ・ファンさん(中国)が選ばれました。このコンクールの入賞者は、翌年以降のヴィオラスペースの音楽祭にゲストとして招かれ、再び日本で演奏を行います。

今回は、ヴィオラスペースの第30回公演となる2021年に開催の予定です。助成金贈呈式では、第4回東京国際ヴィオラコンクールの審査委員長を務めた今井信子さんと、第1位に輝いたルオシャ・ファンさんが、バルトークなど5曲を披露しました。



第1位入賞のルオシャ・ファンさん(右)と今井信子さん(左)による演奏(助成金贈呈式にて)



第4回東京国際ヴィオラコンクール(本選)でのルオシャ・ファンさん

日仏友好芸術交流事業 鼓童 × 太陽劇団『Kodo Soleil プロジェクト』

発表者：菅野敦司氏(公益財団法人鼓童文化財団・専務理事)

『Kodo Soleil プロジェクト』は、パリの夏のフェスティバルの一環として、2018年7月17~22日に実施された舞台芸術の国際交流プロジェクトです。鼓童からは若手メンバー10人が参加し、フランス太陽劇団(Soleil)敷地内の屋内公演会場で行われた全6回の上演はいずれも満席で、のべ3,200人ほどのお客様が鑑賞されました。

滞在期間中は、近くの幼稚園児にリハーサルを観ていただいたり、太陽劇団の団員向けのワークショップを行ったりするなど、太鼓を身近に感じていただく機会も設け、言葉の壁を越えて交流が深まりました。



鼓童若手メンバーによる演奏(助成金贈呈式にて)

太陽劇団は、1964年からパリ郊外に拠点を置き活動しています。劇団員が公演にまつわる料理を作ってお客様にふるまう伝統があり、今回は私たちが来ていたので、ちらし寿司が出されました。まさに劇場が社交の場になっている印象です。

鼓童も太陽劇団も、活動は半世紀におよびます。今後は、そうした伝統を若手に伝えることと併せ、新しい時代の価値観や表現手法を学ぶことも大事です。太陽劇団では、今回の交流をきっかけに2020年に発表する新作を佐渡で創作したいという思いがあり、佐渡に劇団員の方がリサーチに来られます。そうした意味で、今回のプロジェクトは、鼓童と太陽劇団の交流と未来に向けた創造活動のキックオフとなるものでした。



『Kodo Soleil プロジェクト』での交流風景

本年度(2019年度)助成事業の一例

2019「平和と美術と音楽と」 Peace Art project in ひろしま実行委員会

2019年5月15日～2020年3月15日
(海外) フランス、スペイン他、(国内) 広島市、広島アステールプラザ

文化・芸術による国際交流を通して、広島から、未来を担う子供たちのために平和な世界を構築して残すことの大切さを発信します。人種、宗教、世代、国境を越えて和合することの大切さを呼びかけ、平和を強く願う思いを共有することができる活動とします。



2020年東京オリンピック祝賀 能楽「火の鳥」 Theatre Nohgaku, Inc.

2020年2月29日～3月13日
アメリカ・テキサス、Luella Bennack音楽センター

当作品は伝統的な日本の「能楽」と現代オペラの要素を融合した新作劇で、2020年東京オリンピック開催を祝って上演されます。テーマは、戦時下において軍部の反対などにより開催が実現しなかった1940年の「幻の東京オリンピック」や、大成功を収めた1964年の東京オリンピックで、国や文化の違いを越えて互いの理解を深めるオリンピック精神の素晴らしさを称えます。



ネパールと日本の青少年によるグローバル交流プログラム 特定非営利活動法人 Colorbath

2019年6月1日～2020年3月31日
山口県周南市、大阪府大阪市

Web(インターネットTV電話)を活用して日本と海外の教室をつなぎ、リアルタイムで世界とつながる体験を提供する事業です。海外の生徒を日本に招待し、対面での国際交流も行います。これらの交流を通じて、普段当たり前に思っていることや世界の捉え方が変化することで、子供たちの視野や夢が広がることを目指します。



2019年度 日本万国博覧会記念基金助成事業一覧 (★印は国外事業)

事業者名	事業名	助成金額 (万円)
1. 国際交流、国際親善に寄与する活動 ……………		
重点助成事業(国外1事業/640万円)		
★日本美術・技術博物館マンガ館	備前長船日本刀展覧会	640
一般助成事業(国内14事業/2,640万円、国外11事業/2,135万円)		
★一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会	第4回アフリカ・マコンデ族の音楽と文化交流ツアー	205
★公益社団法人北之台雅楽アンサンブル	2019オーストリア・ポーランド雅楽公演	110
特定非営利活動法人ACROSS	日本・カンボジア未来交流プログラム	90
特定非営利活動法人国際交流の会とよなか	大阪～ウズベキスタン青少年交流	100
ユネスコNGO国際民間文化芸術交流協会	大阪国際芸術祭“INTERNATIONAL FESTIVAL OSAKA”【I(愛)・F・OSAKA】	210
地球音楽プロジェクト実行委員会	ブルガリア・日本「3つの周年」記念事業 大地と天を繋ぐ、調和への祈り～ブルガリアン・ヴォイス×笙の響き～アンジェリーテ来日公演2019	240
歴史街道推進協議会	日本文化体感プログラムを通じた首都圏の留学生との交流事業	240
認定特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング	ICEP(インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム)2019	205
龍野アートプロジェクト	龍野アートプロジェクト2019 日波国際芸術祭「アニマanima」	205
大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立民族学博物館	国立民族学博物館2019年特別展「驚異と怪異 - 想像界の生きものたち」	240
Peace Art Project in ひろしま実行委員会	2019「平和と美術と音楽と」	170
★特定非営利活動法人劇研	日ボ国交樹立100年記念文化交流事業 文化大使 ポーランドにおける日本演劇祭	240
公益社団法人日本国際民間協力会	在日外国人・留学生を対象にした日本の農業文化と環境保全活動の実践と普及を通じた国際交流	50
神戸ワールドフェスティバル2019実行委員会	～神戸から世界へ発信♪ 留学生や在日外国人と有志日本人で作る発信型イベント～ 神戸ワールドフェスティバル2019	210
一般社団法人東京国際合唱機構	第2回東京国際合唱コンクール	240
のせでんアートライン妙見の森実行委員会	のせでんアートライン2019	240
特定非営利活動法人Art Bridge Institute	台湾と日本 時代と国を越えた民間写真史研究プロジェクト	200
★黒森歌舞伎ポーランド公演実行委員会	黒森歌舞伎ポーランド公演	240
★八雲会	ラフカディオ・ハーン来米150周年記念事業 オープン・マインド・オブ・ラフカディオ・ハーン in USA	200
★ニッポン・コネクションe.V.	第19回日本映画祭「ニッポン・コネクション」	160
★北ルソン日本人会	「17世紀における日比交流史」をテーマにした古楽器演奏会及び七夕祭りの開催	210
★Theatre Nohgaku, Inc.	2020年東京オリンピック祝賀 能楽「火の鳥」	160
★日芬修好100周年記念事業御神興行列実行委員会	OMIKOSHI FINLAND 2019	210
★コーデン城日本庭園	コーデン城日本庭園四季の文化交流公演展示	200
★ジャパン・ソサエティー	俗楽舎 - 雅楽演奏グループ	200
2. 教育、学術に関する国際的な活動 ……………		
一般助成事業(国内12事業/2,275万円、国外5事業/800万円)		
特定非営利活動法人バンゲア	ICTツールを用いた児童のための関西異文化サマースクール事業	205
WHC2019実行委員会	IEEE World Haptics Conference 2019	210
★模擬国連全米大会 日本代表団派遣事業運営局	2020年模擬国連会議全米大会第36代日本代表団派遣事業	100
★公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	高校模擬国連国際大会への第13回日本代表団派遣支援事業	160
★日蘭学生会議	第十回日蘭学生会議	190
強相関電子系国際会議組織委員会	強相関電子系国際会議2019	240
小松サマースクール実行委員会	小松サマースクール2019	190
第15回応用生物無機化学国際シンポジウム組織委員会	第15回応用生物無機化学国際シンポジウム	300
特定非営利活動法人Colorbath	ネパールと日本の青少年によるグローバル交流プログラム	110
科学の祭典実行委員会野外実験班	万博公園理科実験野外教室～科学実験を通じた国際交流によって次世代の科学者を育成する～	50
第10回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ実行委員会	第10回食用菌根性きのこに関する国際ワークショップ	60
★一般財団法人教育支援グローバル基金	ビヨンドトゥモロー アジア・サマープログラム 社会経済的に困難な状況にある日本とタイの若者の人材育成事業	200
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	J-PARC国際シンポジウム2019:「宇宙・物質・生命の起源を求めて」	300
エコデザイン学会連合	第11回環境調和型設計とインバースマニュファクチャリングに関する国際シンポジウム	240
特定非営利活動法人エデュケーションガーディアンシップグループ	第24回海外高校生による日本語スピーチコンテスト及び青少年のための異文化交流プログラム	200
フェリックス・ウフェ・ボウニ大学 CIRCES 経済政策分析センター	国際セミナー「アフリカ諸国の発展途上における社会経済的変革: 日本から学べることは何か」	170
★社団法人欧州日本専門家協会	人間中心のデジタル化: 安全で調和した豊かな欧州および日本の未来に向け、次世代の人材とロボットをいかに開発するか?	150

※辞退を除く